

第31回 東洋大学・専修大学 剣道定期戦

日時：令和4年11月13日（日） 14：00～16：30

会場：専修大学総合体育館1階アリーナ

主催：専修大学剣道部・東洋大学剣道部



大会会長挨拶

専修大学体育会剣道部
部長 齋藤 実

この度の東洋大学と専修大学の定期戦にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染は未だ収束には至らず、スポーツ界にもまだまだ影響を及ぼしてはいるものの、徐々にではありますが様々な行動制限が緩和されてきました。この2年間、東洋大学・専修大学定期戦も中止を余儀なくされておりましたが、多くの関係者のご尽力とご支援をいただき開催できますことを大変嬉しく深く感謝申し上げる次第です。

さて、振り返りますと、本年度の4年生は大学においてコロナの影響を最も受けてきた世代です。2年次には感染拡大防止のため外出制限がなされ、大学の授業は全てオンライン授業となり、剣道の対人稽古は自粛の指示が出されました。同6月には現在も続けられているマスク、シールド着用などの厳格な感染拡大予防ガイドラインのもと稽古の自粛が解除されましたが、2年次の各種大会は全て中止されました。その後も感染拡大は波が押し寄せるように続き、部員に感染者や濃厚接触者が確認される都度、外出制限や隔離生活を余儀なくされ、全体での稽古は何度も中止せざるを得ない状況となりました。3年次においても大会日程の変更や無観客などの制限がなされ、本大会も中止をせざるを得ませんでした。本年度もコロナの感染拡大の影響を受け秋期の開催とさせていただきますが、この3年間の苦しい状況の中、部員一同で結束して稽古を重ね、全日本学生剣道優勝大会まで部を率いてきた4年生全員の集大成の時期での開催となることから、これまでにない選手の強い思いが込められた大会となることが期待されます。定期戦の場では大学の誇りを胸に、力と技を遺憾なく発揮していただくことを願っています。

最後になりますが、30年を超えて続けられてきた定期戦は、定期戦創設時の揺るぎ無き志があったことはもちろん、毎年大会の運営に尽力してきた両校学生、更にそれをご支援下さった先輩諸氏のおかげと感謝いたします。本大会を通じて両校の交流がより深まることを願うとともに、両校剣道部およびOB会がますます発展することを祈念いたします。

大会副会長挨拶

東洋大学体育会剣道部
部長 今 有礼

専修大学と東洋大学の定期戦が開催されるにあたり、ご挨拶申し上げます。まずは、新型コロナウイルスの影響で中止が続いていた両校の定期戦が3年ぶりに開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、お忙しい中、定期戦を開催するにあたり事前の調整や準備等に携わってくださった関係各位に心より御礼申し上げます。私事ではありますが、昨年度中京大学から東洋大学に着任し、同時に稲沢公一前部長より剣道部部長を引き継がせていただきました。この専修大学と東洋大学による定期戦は今年で31回を数え、両校の交流や技術向上に大きな役割を果たしてきたと伺っております。今回初めてこの伝統ある定期戦に参加できますことを大変嬉しく光栄に思っております。

さて、一昨年から流行している新型コロナウイルスですが、スポーツ界への影響は大きく剣道界においても猛威を振っております。一昨年度においては全日本剣道選手権大会が延期となり、他の重要な大会や審査会に関しては中止となりました。大学剣道界においても各地方予選や全日本学生大会などの主要な大会が相次いで中止となりました。昨年度からは開催時期を変更するなどの対応もあり何とか両大会とも開催されましたが、面マスクの着用や暫定的な試合・審判法が適用されるなどコロナ禍前とは異なった環境での開催となっております。普段の稽古環境も激変し、人数制限や稽古時間の制限など様々な制約がある中での稽古を余儀なくされています。新型コロナウイルスによる影響は現在も続いておりますが、このように様々な制約がある稽古環境においても両校ともに工夫を凝らしながら今日に至るまで稽古を積み重ねてきたと思います。本日の定期戦ではその成果を十二分に発揮していただき、今後の成長の足掛かりとなる定期戦となることを願っております。

最後になりますが、本定期戦を通じて両校剣道部の絆がより深まるとともに、両校剣道部がさらに発展することを祈念してご挨拶とさせていただきます。

大会実行委員長挨拶

専修大学体育会剣道部

矢村 哲平

本日ここに第31回東洋大学・専修大学剣道定期戦が盛大に開催されますことは、誠に喜ばしい限りでございます。新型コロナウイルスの影響で二年間行われなかったこの定期戦を今年開催できますのは、日頃の稽古や私生活において徹底した感染対策ができていたからだと思えます。両校ともに稽古で培った技術と精神力を遺憾なく発揮し、素晴らしい試合が展開されることを期待しております。

また、今回この機会に両校の交流を深め互いに良いところを学び、今後の大会で活躍していくための糧としていただけたらと思えます。

最後となりましたが、本大会を開催するにあたり、大変お忙しい中御尽力を賜りました諸先生・先輩方並びに大会運営にあられた学生の方々に感謝の意を表すると共に、心より御礼申し上げます。

式次第

〈開会式〉	〈閉会式〉
選手役員入場	選手役員入場
開会宣言	成績発表
優勝杯返還	表彰
会長挨拶	講評
審判長注意	閉会宣言
審判員紹介	選手役員退場
選手役員退場	
エール交換	

〈大会順序〉

14 : 00	開会式
14 : 30	試合開始 東洋大学 対 専修大学
16 : 30	閉会式

大会役員

大会会長 齋藤 実 (専修大学体育会剣道部 部長)

大会副会長 今 有礼 (東洋大学体育会剣道部 部長)

審判長 中村 守緒 (専修大学体育会剣道部 OB)

審判員

小久保 治久 (国際武道大学 教士八段) 佐久間 亮 (明星大学 教士七段)
緒方 貴史 (明治大学 教士七段) 川邊 正太郎 (日本体育大学 錬士七段)
飯蓋 深水 (中央大学 錬士六段)

(敬称略)

大会実行委員長 矢村 哲平 (専修大学)

大会副実行委員長 山本 恵大 (東洋大学)

主 将 挨 拶

東洋大学体育会剣道部

主将 徳川 翔太

本日ここに第31回専修大学、東洋大学剣道定期戦が盛大に開催されることは、我々部員一同にとりまして大変喜ばしい限りです。

コロナの蔓延により何年ぶりの定期戦となりましたが、この大会を行うことができたのもご指導下さいました諸先生方をはじめ先輩の方々、また大会役員のご尽力の賜であり、改めて感謝する次第であります。日頃培ってきた力を遺憾なく発揮して、正々堂々と最後まで戦いたいと思います。

最後に、専修大学様の更なるご発展とご活躍を祈願するとともに、この定期戦が継続して開催ができるよう祈願し私の挨拶とさせていただきます。

東洋大学 選手名

監督	板原 浩
主務	山本 恵大

女子

選手氏名	学年	段位	出身校
内村 吏沙	4	3	三養基高等学校
瀧澤 真由	4	3	市立船橋高等学校
逸見 茉穂	4	4	流通経済大学付属柏高等学校
倉ノ下 萌香	4	4	八女高等学校
横井 怜子	4	4	桐蔭学園高等学校
補欠			
遠藤 桃香	3	3	岡山商科大学附属高等学校
砂田 千栄	3	3	三養基高等学校

男子

選手氏名	学年	段位	出身校
岩石 竜輝	1	3	三養基高等学校
福王 秀幸紀	1	3	東海大学菅生高等学校
津埜 竜弥	1	3	拓殖大学紅陵高等学校
高澤 隆希	2	3	埼玉栄高等学校
馬場 魁斗	2	3	長崎南山高等学校
清水 琢光	2	3	東海大学菅生高等学校
山田 啓二郎	3	3	東洋大学京北高等学校
山田 隆人	3	3	奈良大学附属高等学校
水谷 遥希	3	3	杉並学院高等学校
田村 燎祐	3	4	拓殖大学第一高等学校
武石 和輝	3	4	東海大学付属相模高等学校
和田 亘平	3	3	東洋大学附属姫路高等学校
窪山 恵介	3	3	東福岡高等学校
長谷川 勇輝	4	2	東洋大学京北高等学校
山田 翔太郎	4	3	福岡高等学校
皆川 直樹	4	3	酒田光陵高等学校
島田 峻輔	4	3	松本美須ヶヶ丘高等学校
山本 恵大	4	3	鎌倉学園高等学校
大門 武流	4	3	東奥義塾高等学校
北沢 笙	4	3	土浦湖北高等学校
山下 晃輝	4	3	東海大学付属浦安高等学校
小野 二千翔	4	3	甲府商業高等学校
矢野 慈英	4	3	東福岡高等学校
山下 京冴	4	3	東山高等学校
徳川 翔太	4	4	三養基高等学校
補欠			
小島 瑛仁	2	3	市立船橋高等学校
佐伯 優真	3	3	玉島高等学校

主 将 挨 拶

専修大学体育会剣道部

主将 櫻井 隆登

末枯野美しき晩秋の候、東洋大学様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのことと存じます。

本日ここに記念すべき第31回東洋大学・専修大学剣道定期戦を迎えることができますことは、我々部員一同にとりまして大変喜ばしいことであります。

このように盛大に定期戦を行うことができますのも、ご指導頂いた諸先生方をはじめとする先輩の方々、また大会役員の皆様のご尽力の賜物であり、改めて感謝する次第であります。

新型コロナウイルスの影響で2年間にわたり、東洋大学・専修大学剣道定期戦を行うことができず、また練習や大会も制限された中で行うことを強いられ、互いにつらい思いを乗り越えて今ここに立っているのだと存じます。これらの経験や日頃の練習で培った力を遺憾なく発揮し、勝敗に関わらず、学生らしく元気よく正々堂々とした試合を悔いが残ることなく展開することを心掛け、東洋大学の皆様方から多くのことを学びたい所存であります。

最後に、感染対策には十分に気を配りながらも、この定期戦でお互いの中をより深め、良い仲間、良いライバルとしてお互いの関係をより一層深められることを祈念して挨拶とさせていただきます。

専修大学 選手名

監督	梅山 義隆
主務	政野 優樹

女子

選手氏名	学年	段位	出身校
澤田 菜々花	1	3	相模原弥栄高等学校
藤島 光優	2	3	淑徳巣鴨高等学校
奥村 真尋	4	4	本庄第一高等学校
染田 玲	4	3	日吉ヶ丘高等学校
定池 葵	4	3	淑徳巣鴨高等学校
補欠			
向井 麻里子	1	3	橋本高等学校

男子

選手氏名	学年	段位	出身校
平田 康陽	1	3	高千穂高等学校
井上 夏稀	1	3	龍谷高等学校
西川 友継	1	3	専修大学玉名高等学校
小野 貫太	2	3	秋田南高等学校
中尾 望	2	3	東福岡高等学校
守安 祥輝	2	3	福岡大学附属大濠高等学校
津城 玲志	3	3	横浜高等学校
坂田 竣宥	3	3	東福岡高等学校
林 智輝	3	4	福岡第一高等学校
片渕 秀斗	3	3	龍谷高等学校
濱地 慶一	3	4	福岡大学附属大濠高等学校
井口 諒	4	4	高松商業高等学校
矢村 哲平	4	4	西京高等学校
伊藤 空	4	4	新南陽高等学校
小山 太朗	4	4	横浜商科大学高等学校
宮本 兼政	4	3	成田高等学校
佐藤 迅	4	4	川越東高等学校
山本 雄大	4	4	東海大学菅生高等学校
肱岡 駿季	4	3	鹿児島商業高等学校
伊藤 勇太郎	4	4	明豊高等学校
深水 皓斗	4	3	九州学院高等学校
吉村 大地	4	3	東福岡高等学校
政野 優樹	4	3	福岡大学附属大濠高等学校
小松崎 大聖	4	3	土浦日本大学高等学校
櫻井 隆登	4	3	東海大学付属熊本星翔高等学校
補欠			
御法川 拓仁	2	3	翔凜高等学校
土井 晴裕	3	3	城北埼玉高等学校

東洋大学校歌

一、亜細亜の魂再び此処に
目覚めしよろこび溢れつ人に
雄々しくあげたり仰の鬨の声
東洋大学 生れぬかくて

二、亜細亜の天地暁明けて
仁義と慈悲との誠の光
今こそ輝け西の海
東洋大学務めは重し

専修大学校歌

一、宮城の北 枢地に立ちて
礎固し 我等が大学
質実は姿 真摯は心
学徒幾千 理想に生きて
濟世の道 ここに学び
経綸の策 ここに究む

二、鳳の翼 両手に開き
世に魁けし 我等が大学
剛健の意気に 力行の勇に
学徒幾千 希望に生きて
常久の富 ここに萌し
限りなき幸 ここに芽ぐむ

我等が行く道 盤石なせり
我等が行く手は 光に充てり

大会要項

- 試合方法 (女子選手) 試合は対勝負により行う。
1 チーム学生選手 5 名とする。
試合は 4 分、3 本勝負として
時間内で勝負が決しない場合は引き分けとする。
- (男子選手) 試合は対勝負により行う。
1 チーム学生選手 25 名とする。
試合は 4 分、3 本勝負として
時間内で勝負が決しない場合は引き分けとする。
- 試合規則並びに審判規則 全日本剣道連盟試合・審判規則、同細則・新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法並びに本大会申し合わせ事項に準じて行う。
- 表彰 優勝 女子の部優勝
優秀選手賞 2 名
敢闘賞 各大学 3 名

対戦表

女子の部

東洋大学		対		専修大学	
先鋒	内村			澤田	先鋒
次鋒	瀧澤			藤島	次鋒
中堅	逸見			奥村	中堅
副将	倉ノ下			染田	副将
大将	横井			定池	大将
得点					得点
代表戦					代表戦

男子の部

東洋大学		対		専修大学	
先鋒	岩石			平田	先鋒
次鋒	福王			井上	次鋒
23将	津埜			西川	23将
22将	高澤			小野	22将
21将	馬場			中尾	21将
20将	清水			守安	20将
19将	山田（啓）			津城	19将
18将	山田（隆）			坂田	18将
17将	水谷			林	17将
16将	田村			片渕	16将
15将	武石			濱地	15将
14将	和田			井口	14将
中堅	窪山			矢村	中堅
12将	長谷川			伊藤（空）	12将
11将	山田（翔）			小山	11将
10将	皆川			宮本	10将
9将	島田			佐藤	9将
8将	山本			山本	8将
7将	大門			肱岡	7将
6将	北沢			伊藤（勇）	6将
5将	山下（晃）			深水	5将
4将	小野			吉村	4将
3将	矢野			政野	3将
副将	山下（京）			小松崎	副将
大将	徳川			櫻井	大将
得点					得点
代表戦					代表戦

